



繪本通俗三國志

八編

二

45  
21  
221  
72





於  
221  
72

東  
學  
校  
藏



繪本通俗三國志八編卷之二

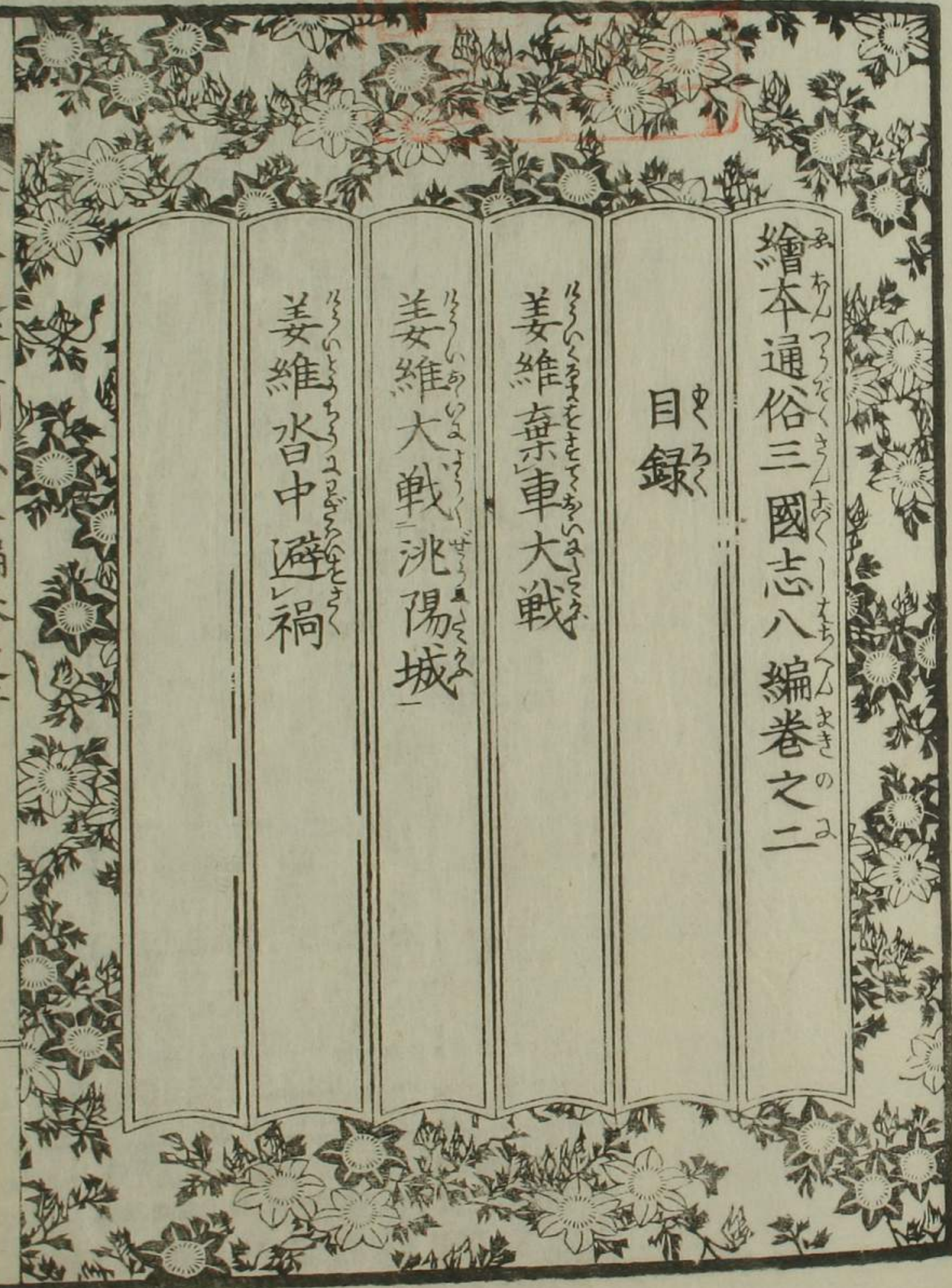
繪本通俗三國志八編卷之二

目錄

姜維棄車大戰

姜維大戰洮陽城

姜維沓中避禍

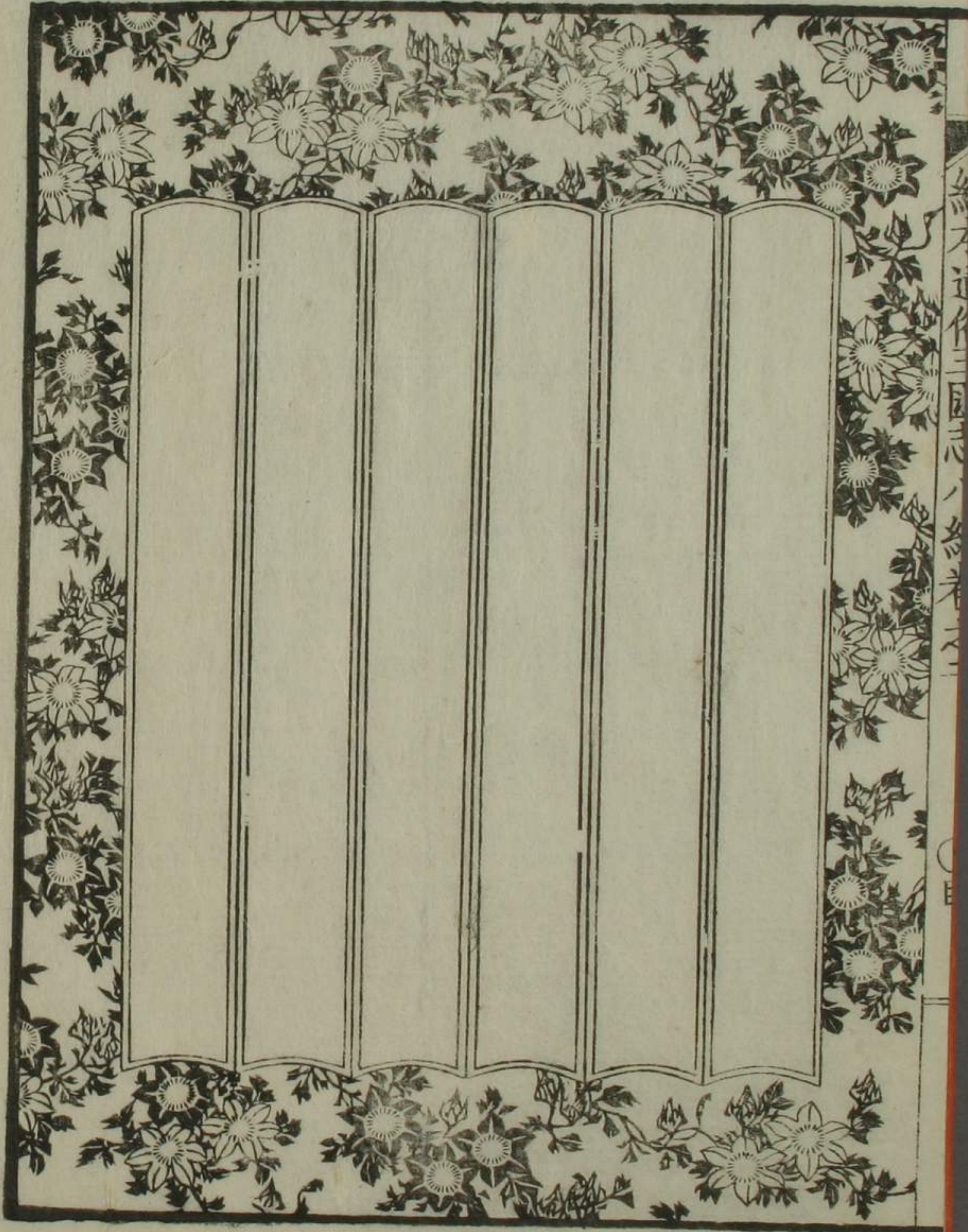




繪本通俗三國志八篇卷之二

美女維棄車大戰

司馬昭（たけし）をてゝ魏主曹髦（たけし）と弒して曹奂（たけし）と君とせしむる由蜀の國へききたる人より姜維（やまゐ）大に喜びしといぬ魏と伐み時を得たりとて吳の國へ使と遣してとよみ兵と兵とせ蜀の勢十五万と調て板千輛の車と兵糧と積庾化と子午谷より出し張翼と駱谷より出し自ら斜谷より出く尽く祁山（しやま）の鎮西將軍鄧艾（たけし）の祁山と陣と取て居たりしが蜀の勢三手に分てて出来るとき謀將と計と義しりしとて參軍王瑾（たけし）とて出て曰くこゝに一の計あり言とのめて云ぐ。書付くまゝあり願くは蜀の勢とやぶ



繪本通俗三國志八篇卷之二



らん鄧艾ひらたえてやれる。此計よと奇妙なるも。  
たゞ畏く姜維とあざむくと能く王権が曰く一命を棄  
て此計よとまん鄧艾が曰く御辺志と堅くして若の計  
正と成就せばまらば大功あらんとて五千余騎と  
こけ与王権いとき斜谷の路よ出むらひ蜀の先手の勢  
あつて我の魏の國より降参のの此由と大將軍よ告よと  
よがりけしと姜維ととて王権乃一人とせし仔細  
とき王権地よ拝伏し其の魏の尚書王經が姪よ王権と  
中もの之近比司馬昭の君と叙して某が三族と市よ出  
して首よ斬某一人の祁山の陣よありて幸よ命と助る今  
將軍師と出罪と正して魏と討め其手勢五千余騎

と引て来降る。秘がへ忠と尽して國家よ報し司馬昭を  
滅ぼして一族の讎言を雪んといひしと姜維がたうと喜  
び御辺をよ味方よ降る。忠と尽しぬ人功あらばちり  
用ひん味方常よ患るもの兵糧あり。今兵糧と積なる  
車よな川口よまで出し置り。御辺行て此所へよまび来れ。二  
祁山よ出て戦へといひしと王権心の内大よ喜び一議よ  
も及ばず打立んとて姜維曰く御辺の勢五千余騎は  
あへど過たり。三千人と引て米を運しや。残る二千の勢は  
我をちへち安内者として祁山よ出ん王権疑へんことを  
怕る。三十余騎よ出る。二の勢は姜維が方よと  
めて大將傳令が手よ属せしむ。まばらくありて夏侯霸来

會本通合三國志八編卷之二







り姜維（カウイ）もむろつてヤル（カウイ）何故（ナニニ）又王（カウイ）權（カウイ）が降（カウイ）亦（カウイ）と實（カウイ）ありと  
あゆひゆめぞ我（カウイ）々（カウイ）魏（カウイ）ありて卒（カウイ）又王（カウイ）權（カウイ）ハ王（カウイ）經（カウイ）が姪（カウイ）と  
いふこときく必（カウイ）必（カウイ）詐（カウイ）の計（カウイ）てゆへん姜（カウイ）維（カウイ）笑（カウイ）つてヤル（カウイ）  
つと己（カウイ）よその詐（カウイ）とまぬ人の勢（カウイ）と二（カウイ）の分（カウイ）なり我（カウイ）いふ  
敵（カウイ）の計（カウイ）又就（カウイ）て計（カウイ）を用（カウイ）いんとちの夏（カウイ）侯（カウイ）霸（カウイ）が曰（カウイ）く願（カウイ）く將（カウイ）  
軍（カウイ）の計（カウイ）てきらん姜（カウイ）維（カウイ）が曰（カウイ）く司（カウイ）馬（カウイ）昭（カウイ）が奸（カウイ）雄（カウイ）ちるこ曹（カウイ）操（カウイ）も  
も超（カウイ）たり己（カウイ）又王（カウイ）經（カウイ）が三（カウイ）族（カウイ）を滅（カウイ）おして安（カウイ）んぞその志（カウイ）なき  
姪（カウイ）と生（カウイ）く置（カウイ）き況（カウイ）んや兵（カウイ）を付（カウイ）て圍（カウイ）と守（カウイ）しむることせん  
やあまようそ先（カウイ）の詐（カウイ）と志（カウイ）御（カウイ）邊（カウイ）の見（カウイ）る意（カウイ）又同（カウイ）く  
今（カウイ）まで斜（カウイ）谷（カウイ）の路（カウイ）より出（カウイ）たりし却（カウイ）く去（カウイ）の路（カウイ）より出（カウイ）る謀（カウイ）  
不（カウイ）の路（カウイ）條（カウイ）よ人を伏（カウイ）て王（カウイ）權（カウイ）が内（カウイ）通（カウイ）の使（カウイ）を捉（カウイ）へし安（カウイ）ホのこく

十日（カウイ）ゆとぎざる（カウイ）又使（カウイ）と捉（カウイ）へ来（カウイ）りし使（カウイ）と責（カウイ）て懐（カウイ）より書（カウイ）止（カウイ）間（カウイ）  
と出（カウイ）し乃（カウイ）ち披（カウイ）きしとむ。又鄧（カウイ）艾（カウイ）が方（カウイ）内（カウイ）通（カウイ）の書（カウイ）みていふ  
蜀（カウイ）の兵（カウイ）糧（カウイ）とむむびの急（カウイ）だ合（カウイ）戦（カウイ）とむむる密（カウイ）に兵（カウイ）糧（カウイ）と盜（カウイ）  
んで小路（カウイ）より回（カウイ）らんと書（カウイ）たり。姜（カウイ）維（カウイ）大（カウイ）喜（カウイ）んで又使（カウイ）を  
斬（カウイ）て弃（カウイ）させ。八月（カウイ）十五日（カウイ）又大（カウイ）軍（カウイ）と引（カウイ）て斜（カウイ）谷（カウイ）の外（カウイ）壘（カウイ）山（カウイ）の谷（カウイ）ま  
たり。我（カウイ）ホ兵（カウイ）糧（カウイ）の車（カウイ）と盜（カウイ）むせ回（カウイ）ると書（カウイ）改（カウイ）て二人（カウイ）の  
使（カウイ）と仕（カウイ）立（カウイ）鄧（カウイ）艾（カウイ）が陣（カウイ）へぞ遣（カウイ）し。そのち將（カウイ）舒（カウイ）と大（カウイ）將（カウイ）と  
て斜（カウイ）谷（カウイ）より出（カウイ）し姜（カウイ）維（カウイ）のけら夏（カウイ）侯（カウイ）霸（カウイ）と壘（カウイ）山（カウイ）の内（カウイ）に埋（カウイ）伏（カウイ）  
て。又百（カウイ）輜（カウイ）の車（カウイ）と乾（カウイ）る柴（カウイ）とつと硫（カウイ）黄（カウイ）焰（カウイ）硝（カウイ）と内（カウイ）にまめて青  
き布（カウイ）とめて四方（カウイ）と包（カウイ）む。兵（カウイ）糧（カウイ）のこくよんせて傳（カウイ）令（カウイ）と命（カウイ）  
て王（カウイ）權（カウイ）が分（カウイ）たる二十（カウイ）の勢（カウイ）と守（カウイ）らせ運（カウイ）糧（カウイ）の旗（カウイ）とじ



て壘山の内ニ住来せしむ。去程ニ鄧艾ハ王瓚ダ内通せしめ  
ていやくと戦ともありし不<sup>レ</sup>使ひて来て計と約しり。其  
日の内ふうく喜びみびから司馬望と斜谷の口ニ生く。毎  
日戦ひて催し態と矢軍にて日と送る。己ニ八月十五日ニ  
至りルも。鄧艾みびから五万余騎にて壘山の谷ニ陣と  
る山の上ニ人として上せてんせしむる。みびとく兵糧乃車  
谷の間より推来るとや。鄧艾馬と出して。ささぐのぞむ  
ニ運糧の旗とさして。蜀の勢ちりり。肯てささぐ。く  
進ざる不<sup>レ</sup>手下の大將告て曰く。日も己ニ昏<sup>レ</sup>及り。さす  
進んで谷と出る人。鄧艾曰く。むくの山ハ勢ハ深く打掩て  
り。敵の伏兵ちどあるとた。い急ニ退くところたらん。暫との不

よとありて。事の様と窺<sup>レ</sup>。時ニ早馬一騎をせ来り。王瓚  
兵糧と盗んで走る不<sup>レ</sup>後より敵の追<sup>レ</sup>とをさる。急<sup>レ</sup>  
速<sup>レ</sup>ニ救む人といひ。己ハ鄧艾とさる。ささぐ兵と引て進け  
る。己ニ初更の比ニ至て。月の光も昼のごとく。山の後ニ哄の  
声あり。是定て王瓚ダ敵ニ追<sup>レ</sup>とて戦ちる。己として。さ  
うニ山とまつらん。とさるとた木陰の中より。一手の勢殺到  
きて。鄧艾とどろひて。是をたれば。蜀の大將傳食ま。たさ  
んで大音あげ。鄧艾匹夫とて。姜將軍の計。み落されん  
ぞ。さす降らざると。ささぐ。鄧艾膽を冷し。扱<sup>レ</sup>計。あ  
たさるとして。急<sup>レ</sup>逃<sup>レ</sup>んとさる。四方の車より。火の生硫黄焰  
硝<sup>レ</sup>八方ニ散乱して。山々峰々より。蜀の伏勢一度ニ起る。魏



の勢あつて騒ぐ七新八統討るるの板とあらば鄧艾を生  
取もの千金と与へる戸侯と封ぜんと言ふまぶりし  
鄧艾膽魂も身よてへむ馬とてりて甲盛ともぬぎとて懸  
と歩立の勢も打混り。樹の根岩の稜もつら付嶺とあらば  
たろくく又逃のびろ。姜維夏侯霸へ鄧艾を伐んとて歩  
立の勢も月もくけり馬とてりて逃るものと追る故も鄧  
艾と討洩りり。まじりども魏の勢五万余騎ありひ討る  
ひへ焼きて扶るものありり。王權ハ浩るものもあらば  
川口より兵糧の車と推てやろ中祁山へ近付るも手下  
の兵一人走来りてやろ。日比の計とて洩て鄧將軍も破  
れひ蜀の大勢もあらばやせひ王權大もあらば兵と下

知して兵糧の車も火と付させ。今逃るとせば悪くは汝  
ホた命と此もよ棄よとして祁山の方へ回らば西きく  
走りるも兵糧の車おびしく火とあがり。蜀の勢三千分  
れて追るも姜維の兼て計の破りたるもまじり王權定  
て魏の國へ逃るべしとおひりるも案も相違して王權却  
て漢中とてして逃入難所の棧と焼落して追手と拒ぎけ  
まば姜維漢中の破りんとて怖れて小路より南谷と出  
前後とまじりて攻たりるも王權が三千余騎を討れ  
てその身も黒竜江と沈んで失てり。姜維生取ともまじり  
とぐく埋殺させ勝軍へ志なきもの多く兵糧とやら棧と  
落さると暫く漢中と陣と取て又師と出さんく用意と



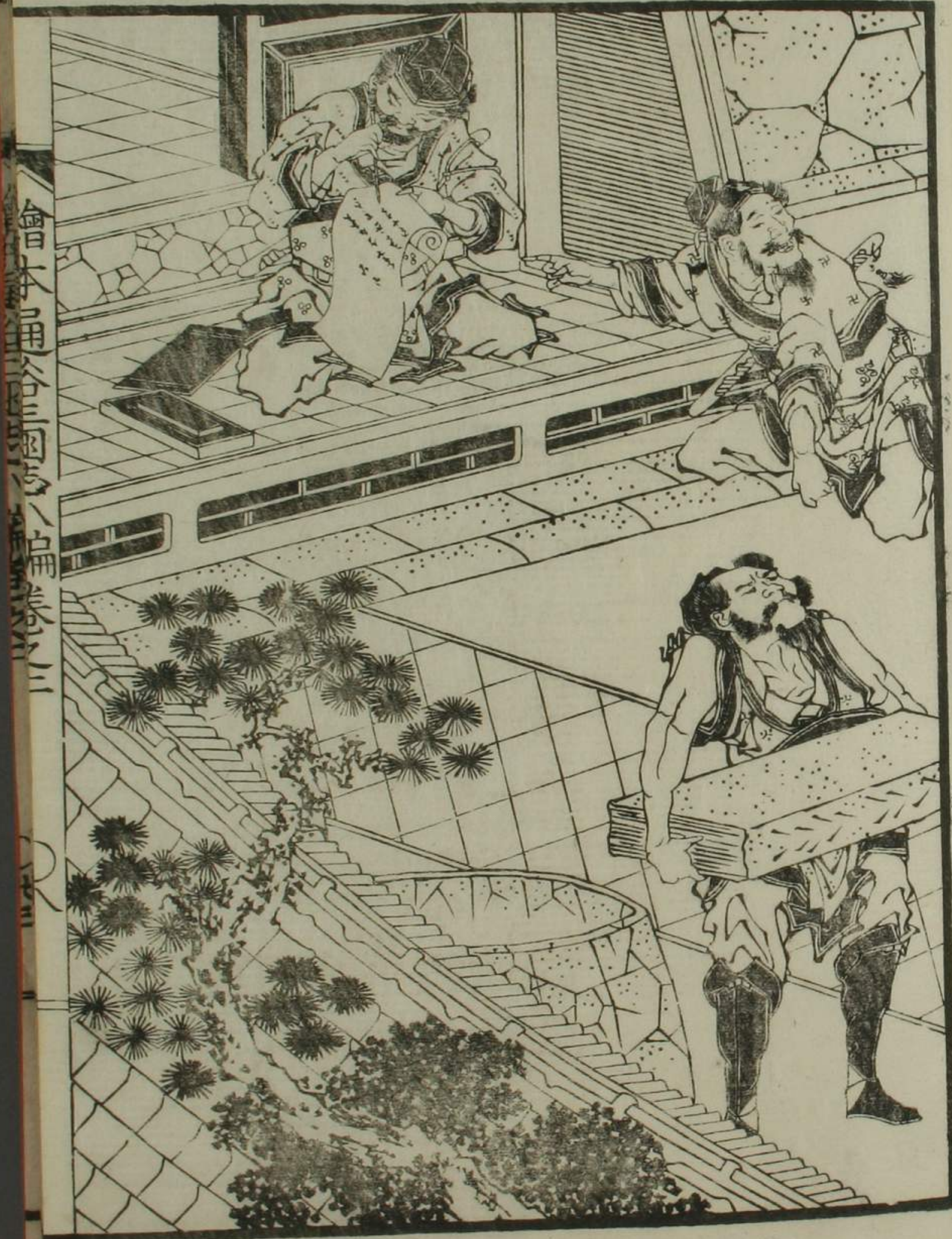
ある。蜀の文のあびはしく討きて祁山の陣を回り表を上りて  
罪をこころみけら官を賤しるるも司馬昭日比大なる功  
あるをめて却て厚く恩賞し討たるもの妻子も財寶  
を与へ又五万余騎を副て。諸名の要害を守らしむ。

姜維大戦洮陽城

蜀の景耀五年冬十月大將軍姜維落九名の棧を造ら  
せ大小の車も兵糧を稠漾中の川條に舟筏を浮べて用  
意なく備りぬるに成都を表を上りて臣師を生きて板  
度も及んで未だ大功を成せしやせども頗る魏の大將乃  
膽を挫ぐ。今兵を兼て日久く戦ひぬるとたに懶に懶  
くして徒ら日を送るとたに必も病を生む。况や諸軍も亦

命を棄んとて種々の臣又師を生きて若勝とちるんば必も  
罪を正しむると奏しるるに此とた後主劉禪いよく酒も弱  
色も耽て心昏迷して決する暇なく太史譙周をも生きてや  
らる。臣夜天文を視る蜀の分野將星暗して明きらぬ。又  
大將軍又師を生きて魏を伐んとた此度の軍もるるに利  
あるは天子詔を下して止む。後主宣ひらる。今一度  
の勝負をてての利もくんば重て止む。譙周再三いひま  
ども肯て志とがひぬるがし。家も回りて大に哭く。其子の  
とてあやしく父も哭きぬる。と問ふ。譙周が曰く。天子の  
酒色も弱て政を治るるを臣下の強いて名を立んとて  
軍民の恨も哭き。佞人へ時を得たり。國の滅亡近付ぬ。此故





姜維  
王権が  
使をせ  
めて密  
る昏をう





哀心しての子告て曰く父己先見の明あり。何ぞを命く。  
 魏は降ぬぬで魏周怒めてナリル。我先帝孤を執るるの  
 命を受知遇の深き方一も報をりて能む。たとひ國滅ぶ家  
 破るとも我へ身を殺して本を報せん安んぞ不忠不孝の  
 事とせん。此より虚病して生ざりり。姜維の表をよて  
 のち諸將をめん。我の魏を代んと何より攻らん。  
 廖化はひりて問るる。廖化が曰く大將軍年々師を生  
 じひて國中片時も安ららば。殊に鄧艾の智深く計多  
 きもの。將軍強て為がたまふを行んと志る。是某が知  
 ざる不ち。姜維勃然として怒て曰く昔孔明六度ま  
 で祁山を土ゆる。是國家の爲ちなり。我又八度魏を伐一

人の私をあらば。今よの洮陽より攻るる。命を背く者ハ  
 自ら斬んとて卒に廖化をよめて漢中を守らせ自ら  
 二十方の方を引て。洮陽より進發と。去のた鄧艾の祁山  
 陣ととり。司馬望と軍兵を調練して居たり。蜀の  
 勢の出る由とすて人を遣し伺へむ。是を洮陽を指  
 て向とす。司馬望が曰く姜維の計多きもの。むろく洮  
 陽を取んとする。体にて。実の祁山を土べ。鄧艾が曰く。志  
 らば姜維實に必を洮陽より土ん。司馬望が曰く。いなる故  
 ぞ。鄧艾が曰く。姜維師を生と。八度いのも味方の兵糧  
 多める不ち。攻る。今洮陽へ空城として。兵糧もあらず。守の  
 勢ゆる。姜維の人の備なきと取て洮陽城を要害とす。



主人羌の勢をのりて長久を討らん為さる。司馬望曰く然  
るとはへいふして拒ぐん鄧艾が曰くその不をたて置兵を二手  
に分て洮陽を救べ。洮陽を離るると二十五里より侯河  
の小城あり。あれ乃ち蜀の勢の洮陽へ通のどくびへ御辺二手  
の勢を引て洮陽の城に入旗をふせ鼓を息て四方の門を打  
ひらけ人なき体よんせ我の二軍を引て侯河の城を埋伏  
し。姜維夏侯霸を擒まんとて。夙く祁山を立て二手  
に分て進發を去程よ姜維洮陽をさして進るを夏  
侯霸馬上よて問て曰く。洮陽の兵糧もなき城さる。將軍こ  
まを取ゆのいふまゝる故ぞ。姜維が曰く。とて七八度まで師  
を出して。とる敵の兵糧多きを。あるは戦ひに利ある地より

攻る。是故よ敵も。心で量知て用心をちる。我のいふ  
洮陽の空城よ敵定て備あら。今一息よ攻取とれん  
攻其無備也。の城を取とれ。壕を深し壘を高  
して。漢中の兵糧をそまひ屯め羌の勢を催して水陸よ  
り運送し。長久の計を成ん。此度勝せん。大なる愧え  
夏侯霸が曰く。その妙論。とて。先手よ。ま  
んとて。自ら洮陽の城ちり。推よせ。その体を伺ひ。る。四  
門を。開て。人ありとも。心疑て。馬をと。め。左右よ。む  
角で。此の敵の計よ。あら。やと。云る。士卒告て曰く。さら  
よ。ありとも。之の。絶ち。百姓。の。怖。駭。を。逃。走。死  
あり。夏侯霸。み。が。ら。馬。を。出。して。の。ど。も。こ。ん。る。果。して。多。くの



百姓老たるを扶け幼を抱て西北の方へ走り去るべし切に敵は  
用心を怠るべし真の空城なりとて自ら真先を以て壕を  
迎まで到るるに忽ち之を鉄砲ひき四方の矢倉を以て  
造て壕の橋を拽たり。夏侯霸大に驚き退る  
とさるとは城の上より大木大石を抛りけ弩を放し雨乃  
どくちりるるに憐むべし夏侯霸五百余騎の兵とどく  
く。壕の際より射殺さる城中の勢は益々弱きを得て司馬望  
みながら討て出るるを姜維後陣を打て散らし蒐散を司馬  
望又城中へ逃入るるに姜維も城近く推よせて陣をとる。其  
夜の二更に鄧艾みづから侯河の城より一軍を引て志は出小  
路をまかりて蜀の陣へ斬て入るるに蜀の勢大に乱して討る者

殺てまらば洮陽の城中にも哄の言を合せて司馬望兵と  
引て打ち出鏑を鳴し鼓を打天地震動して夾んで攻  
るるに蜀の勢は十方散乱し姜維みづから左に突右  
に撞き退るるに二十里ありていづれ敗軍を以てむる  
晝夜の戦ひは千員討死あはて殺たたく況や夏侯霸が  
討たたる由を以て諸軍をなごらば怖る姜維は退い  
て西へ逃げぬべしとあゆみ諸卒をむりてやうらな勝負る  
兵家の常なるに大将を討て士卒を失はしむるに  
患るに足らん魏の勢は此所に集りたるに成敗の分は一  
戦の上あり汝亦始終心を改むるにあらざれば難くも退ん  
とのものありて立所を首を斬り張翼とみ出て曰く魏の







姜維諸將を集て中らるる鄧艾むさく夜軍をる体にて  
 突の祁山を救へん為に張翼打向つてのち勝負のすまきさぞ  
 我自ら行ての叶はし傳命ありと止りて堅く守て敵よまら  
 ともして戦とちられとて自ら三千余騎を引て祁山むさ  
 大のと死張翼の祁山の陣を攻て魏の大將師慕をさんぐ  
 又打破るる不又鄧艾生手を引て出来り後を包ぐ内外よ  
 り攻るる張翼大に乱とて谷の内追込られぬるまき路  
 ちくへんせんとのあつてふたやく不又忽ち哄の吉地で動く魏  
 の勢紛くとして逃走一人張翼を告て姜將軍の勢きた  
 たりといひりると張翼いさかひに乗つて討て出姜維と夾ん  
 て攻るる鄧艾むさく討て祁山の陣を逃さぬり堅く

守めて土あへむ姜維へ勝又乘て四方を圍も息も継せ  
 む攻たりし鄧艾をむ危く今三日とも怖むきとへん之  
 ざりり其比蜀の都又後主劉禪日夜酒色又溺之困  
 の政を委人黄皓が料ひり此より百官尽く黄皓  
 一人又阿り親て幸せらんとと求む時又閻宇といふ者  
 あり其身一寸の功も無し黄皓又福ひと女又時と得て右  
 將軍又昇り近比洮陽の軍又姜維が打負たるまき  
 て黄皓を又と閻宇又威と付んとちり天子又奏し  
 てヤリる姜維師を生して毎度又打負のま閻宇と代て  
 魏と伐り必む大ち功あらん早く詔と下して姜維  
 とちり回りの後主昏迷して其の義又従ひ追て勅命を傳て



鄧艾 姜維 計 甲 ぬぎ 歩 とち げのく



文選 卷之三十一 鄧艾



會本編 卷之三十一 鄧艾

十四



姜維を召し召し。祁山へ姜維をめぐり打勝て。鄧艾を  
生取せんと勇とあらふ。忽ち勅命あり。早く師と収て。り  
へる。一日の内。三度まで催し。大に嘆て。もだ  
し。先傳命を告知せて。洮陽の勢を退。し。ち大  
軍をめぐり。引回る。鄧艾へ祁山の陣。追込られ。心憂ひて  
居たる。一夜。蜀の陣。角と吹鼓を打て。天地と崩れ。が  
如く。ちり。ちり。何事あらんと。怖と。ちり。夜明て。人と生  
て。んせ。し。蜀の勢。一人も。退き。なり。と。鄧艾。嗟  
嘆。し。休む。姜維が。計。わらん。と。怖と。ちり。兵を。制し。と  
追。ぎ。り。り。

姜維水谷中避禍

初も姜維へ祁山の軍。魏の勢をうち破り。鄧艾を  
生取と一戦の上。ありと。勇。よろ。あ。天子の勅  
命。ちり。と。一日。三度。ま。召。させ。た。ま。ん。を。か。よ。を  
む。漢中。まで。引退。せ。た。み。げ。り。成。都。入。り。天。子。ま  
み。へ。ん。と。ま。と。ど。も。後。主。劉。禪。十。日。あ。ま。り。朝。廷。出。た  
ま。ひ。ざ。り。し。心。中。ふ。り。あ。や。し。或。日。東。華。門。に。く。  
秘書郎。郤。正。出。あ。ひ。天。子。詔。の。り。て。某。を。め。り。返。さ  
る。その。故。を。志。り。た。ま。を。や。し。問。ふ。郤。正。や。ら。ん。是。を。黄  
皓。み。だ。り。右。将。軍。閻。宇。を。愛。し。彼。を。威。を。付。け。ん。た  
ゆ。又。将。軍。を。め。り。返。し。閻。宇。を。大。将。軍。と。し。魏。を。伐。し  
め。んと。せ。し。が。今。魏。の。大。将。鄧。艾。が。よ。く。兵。を。用。ひ。て。計。を



夫あきすしをまき。怕とくその事をさし置たるあり。姜維あまを聞く。大又怒り宮中へ入り。黄皓を搦て殺さんとしけむ。卻正まき。引止め將軍今孔明の職を継ぐ位まで至極。昇り何として。くしく事を行ひ。念。方一天子許し。もへん。反逆の名てよむ。ゆへんと制し。けむ。姜維げも。心てま。めて。我家へ回り。次の日。後主劉神園へ出て。黄皓とあて。び。人由てま。自ら五六騎の兵を引。て園へ入り。黄皓を捉えて。築山の陰に隠れ。姜維。天子と拜し。涙をち。び。て。下。臣とて。下。山。の軍。打。勝。て。鄧艾を擒。せん。と。さ。る。る。下。一。日。内。三。度。まで。詔。を。下。して。速。く。も。り。回。り。ゆ。り。の。故。よ。て。ひ。

ぞ。後主黙然として。居ゆ。ひ。へ。姜維又奏して曰く。黄皓巧言令色。よ。して。専ら。権を。執。その。讒。佞。ある。と。靈帝の十常侍あり。陛下遠く。秦の趙高。と。鑿金。ち。る。る。張讓。とい。ふ。や。速。く。勅。を。下。して。黄皓を。殺。し。ま。す。天下。の。の。ら。治。り。漢。室。再。び。興。る。後主笑。ひ。て。宣。ひ。り。黄皓。の。突。又。趨。走。の。小。臣。た。と。ひ。火。の。権。を。執。も。何。程。の。ゆ。り。あ。る。き。昔。董。允。が。常。に。齒。を。切。て。黄皓。を。憎。し。と。朕。あ。ん。く。あ。ひ。ひ。卿。も。亦。あ。ま。と。深。き。と。憎。ぞ。必。ず。心。を。掛。る。と。あ。り。れ。姜。維。頭。首。と。曰。く。今日。ゆ。黄皓。を。殺。し。ゆ。へ。ん。を。國。の。禍。近。し。め。ら。ん。後。主。宣。ひ。り。愛。之。欲。其。生。惡。之。欲。其。死。と。あ。る。の。ん。ち。り。卿。も。亦。ま。と。く。黄皓。を。どの。内。官。と。強。て。殺。



んと望むとして。近臣に命じて。黄皓をせよせ。姜維を捕して。罪を謝せよと宣へば。黄皓をもち。姜維を再拜し。某朝天子に近侍して。曾て國の政を犯さば。將軍いふるを人の讒を信じて。某を殺さんと志すも。願ふ憐れをたゞ。更といひて。頭を叩いて。地を叩き。決てあがじて。謝し。けを姜維とて。まきよろしく。面目を失ふ。退し。卻正は逢て。右のあゆむまきと結る。卻正や。將軍のあはれ。禍にあひ。危きと。たへ。國家たがひて。滅亡せん。姜維が曰く。先生いふる計と。いふ。某が禍を除き。國の滅亡を救ひ。いふ。人。卻正が曰く。沓中といふ。も。西に近して。その地をある。と。肥饒。ち。將軍。孔明。屯田

の計を效て。天子に奏して。沓中を。生屯田。と。ま。い。や。あれ。一。の。ま。い。麦。熟。せば。兵糧の。次。員。と。二。の。ま。い。滝。右。の。諸。郡。を。因。り。べ。三。の。ま。い。魏。の。勢。漢。中。を。窺。て。得。し。四。の。ま。い。將軍。外。に。在。て。兵。権。の。ま。い。人。を。と。て。妨。げ。計。を。能。し。五。の。ま。い。身。の。難。を。免。れ。國。を。保。り。と。得。し。之。を。姜。維。大。に。喜。び。席。を。下。て。拜。謝。し。先生。の。教。ま。と。金。玉。の。論。を。り。我。と。と。い。は。ん。と。て。次。の。日。天。子。に。奏。し。て。曰。く。臣。所。が。く。わ。諸。葛。武。侯。の。法。を。效。ひ。沓。中。に。屯。田。し。て。魏。の。仇。を。拒。ぐ。べ。し。後。主。志。る。と。と。許。し。し。ひ。は。姜。維。を。と。る。と。漢。中。に。生。諸。大。將。を。の。り。て。我。ハ。度。まで。師。を。出。と。と。い。ふ。も。何。日。も。兵。糧。不。足。し。て。大。功。を。成。と。あ。た。は。と。



いぬ我八万余騎にて沓中又出張。麦を時て屯田の計  
とる。矢粮の用意備て心志のう又魏を討ん汝亦いさく  
戦ひを苦む志し。兵粮の用意をちらん間へ退て  
漢中の城を守り魏の勢が遠路の運送又勞とて自ら志  
りぞま去し我追討よして攻破るとして胡濟を大  
將として漢壽城を守らせ王含を大将として樂城を  
ゆらせ蔣斌を大将として漢城を守らせ蔣舒傳會二  
人又陽安関を守らせ其餘の諸將尽く平配を定く  
打立りよへ姜維をのりら。八万余騎にて沓中又陣を取  
麦を種て長久の計をちる魏の鎮西將軍鄧艾は姜維  
が沓中又出て屯田をば四十余り不又陣屋を連綿綿く

として長蛇の勢ひのじとて替又まを伺ひて地形陣  
取の体を画又写して雒陽に上せしむ魏主曹奐はとて  
て晋公司馬昭と議する。司馬昭怒りてゆるるへ姜維九  
度境を侵して中國を騷動し偏又心腹の憂をちるい  
てまを滅さん賈充が曰く。姜維は孔明の兵法を傳て  
まを又のりて滅しうらん替又智勇の人を詔らひ姜  
維を欺ひて刺殺させし司馬昭が曰く。我も常くこのめを  
ちる人の姜維を殺さん。智勇の人なりと又從事中  
郎荀勗ゆるるへ司馬公の又天下の輔相とちりて道を行  
ひゆるたぐよく義を本とて明又無道の輩を伐て罪を正  
る人争る刺客を用ひて姜維を密に刺殺をとりの道あ



らん今蜀主劉禪酒色よ弱よまで佞人黄皓権を專よし  
群臣惑乱して國をよ危よし姜維が沓中よ出よて屯田を  
するも実よ黄皓が禍を避よん為よちる。今より大將を遣よしそ  
攻めよ蜀を滅よぶべし。若替よ姜維とよ殺よし  
んよ是天下を治よる公道よあらば司馬昭が曰よくよま  
とよ妙論あり。今蜀を伐よしよ誰をよめよて大將とせん荀  
勗が曰よく鄧艾の計多よしよ実よ大將の才あり。又鍾會を  
副將とよめよ蜀を破よるよ司馬昭喜よび此よをよか  
意よ又よ恨よりしてよいよそよぎ鍾會をよめよて問よて曰よく今汝を大將  
として吳を伐よしよんよ鍾會が曰よく君の御心よと吳を  
伐んとよあらば必よを蜀を伐よの為よちらよん司馬昭大よ笑よく

曰よく汝よも我心よとよまよりよ己よ又此よのよとよくよちよるとよたよへ汝実よし  
力を尽よして蜀を伐よまよきよ。鍾會懐よしよ一巻の繪図を取よ出よ  
し某をよて君の蜀を伐よしよめよまよきとよ図より地理を写よして此よ  
ありと云よるよ司馬昭よひよらよたよるよ蜀を攻よるよの法よいよぐよよ  
り進よしよ何よより退よき陣を取よ兵糧を貯よるよ不よ尽よく書付よし  
くよ限よちよ喜よんで曰よく汝よもよ大將の才ありよ急よ鄧艾と  
共よ蜀を破よしよ鍾會が曰よ願よいよ忠を尽よして君の思よを報よぜん蜀を  
攻よるよ道條をよ分よたよるよ所よより進よがよ鄧艾よ命  
トて兵をよめよさせよるよ司馬昭よちよらよ鍾會を鎮西將軍  
と封よトて關中の勢を領よせしよ青よ及よ徐よ及よ兗よ及よ豫よ及よ荆よ及よ揚よ及よの勢をよめよしよ又使よを馳よて鄧艾を征西將軍と封よトて





夏侯覇  
 洮陽城  
 討伐  
 死す



夏侯覇



関外。隴上の勢を領せしむ。鍾會と計を合せて蜀を滅せんとす。と下知せしむ。次の日朝廷にて此事を議せしむ。百官皆互に面を合せて言て生ずるものあり。と。元前軍鄧錡と云。もの進出てしるる。姜維九度境を侵して。味方兵を討て。傷を病もの多く。境を守ること。たまた叶ひざらん。況や山谷險難の地。みづるぐと入て。蜀を伐んて。空く人馬を費して却て。大なる殃を引生ぜん。此事決して無用なり。といひ。と。司馬昭勃然として。大に怒り。蜀は國家の爲に害を除去。仁義の師を生じて。無道の蜀を伐。汝ら無用の唇を。揺をぞとして。引生じて首を刎たり。と。百官を大に驚て。冷を司馬昭が白く。百官もあつた。驚くべからず。我淮南にたい。

らげてより己巳六年。兵甲を用意して。吳蜀を伐んとおもひ。と。今日より。謀を吳の國へ地廣下湿し。急に破る。今らば。蜀を平げて流し。志を水の陸より進。ちべ。是乃ち虢を滅せしむ。虞と取の計あり。推量する。蜀の勢。成都を守り。もの八九万境を守り。もの五六方。姜維また。かめて屯田する。もの六七方。我己巳。鄧艾に命じて。関外。隴上の勢。十万余騎を率い。直に沓中を攻破らし。姜維。うま。うり。力をして。尽して。まを拒ぎ。他處を救。暇をらん。その間。鍾會と大将として。関中の精兵。二十萬を付。は。う。駱谷の細路より。虚をのめて。漢中を。今蜀主劉禪。昏暗し。酒を溺。色を迷。邊城外。破。士女内。



震つぐの滅びんと日と討て待べしと云るも百官皆  
理又伏し誠又此のどくあるも蜀も其の滅ぶるも  
鍾會とて鎮西將軍の職を受けて魏國の勢を  
露して青及亮カ豫及荆及揚及五州を大なる兵船  
と造らば大將唐咨と登萊の海近きも遣して  
舟と用意しんと司馬昭とて大なる鍾會と  
召て問て曰く汝陸地より蜀を伐し何とて多く舟と造  
しむる鍾會とて曰く味方大軍と與して蜀を攻るも沙  
汰あらば蜀も其の吳の國と救と求らん其の詐りて兵  
船と造らば吳と攻ると披露とると其の吳の國と

こいで安んぞ蜀を救とせん一年の内蜀と平げ今造  
しむる舟とて呉と伐し豈順ちらばやと云るも司馬昭  
喜ぶと限は此と元景四年秋七月三日鍾會とて都を  
立ちと司馬昭とて引て十里出てとて送る西曹掾  
邵悌といふもの密に傍の人とありぞと司馬昭と私語り  
へ鍾會の志大よと討深きもの今十方の勢を引て蜀を  
伐其量と彼ひとり兵権と執らば必も宜しうらまると  
ん何ぞ別と大將と副て同くその職を司せぬと云れ  
ば司馬昭大に笑ひて曰く我も是とあらざらば孔明六  
たび祁山と出姜維九たび境と侵して味方大將と討ま  
士卒と失ふ今も鍾會とて計と我心と合へり



今日蜀と破らん。と掌の内あり。謀人となす蜀の計討べら  
ざと諫む。ち心臆せるとたへ智勇はしむる  
と。まひて戦うかむるとたへ必む敗と取の道あり。只鍾會独  
罵と伐べるといふ。是れその心臆せざむる。我々のめん。大  
將として向む。彼が志まると大あり。とりども罵滅るとた  
へ軍民尽く。味方降らん。凡そ敗軍の將は不可言勇  
亡國之太夫。不可言存。とりの是れ。是れ心臆せざむる。破るが  
めん。罵の人民尽く。恐怖の心と懐て。あて再び謀反と  
る。のあらん。や況や今向む。中國の勢は尽く。故郷と思  
て。危時もも。今回上らん。とて。ちの安んぞ。謀反の人と与  
して。他國又住るの心有ん。や鍾會の野心と。真さば。是れ自

滅て取の道あり。此事うち。外と洩を。とち。云る  
べ。邵悻再拜して。高論を伏し。誠と遠大の計あり。といふ  
あり。だ。たり。

繪本通俗三國志八篇卷之二終



